

## 企業経営と環境ビジネスを考える研究会「環境経営サロン」

## 活動をまとめた書籍『環境でこそ儲ける』出版・記念シンポジウム開催

- 日時：2013年4月19日(金)17:30~20:30 (開場：17:00)
- 会場：新丸の内ビル 10F エコツェリア(千代田区丸の内1-5-1)
- シンポジウム登壇者：小林光 氏 (慶應義塾大学大学院教授 『環境でこそ儲ける』 編著者)  
水上武彦 氏 (株式会社クレアン コンサルタント)  
小松俊昭 氏 (金沢工業大学 産学連携室コーディネーター)
- シンポジウム発起人：杉山博孝／合場直人／池田靖史／大熊一寛／小松俊昭／竹ヶ原啓介／中里有吾／水上武彦

大手町・丸の内・有楽町地区（以下、<sup>だいまるゆう</sup>大丸有地区）の持続可能なまちづくりを推進しているエコツェリア協会（一般社団法人大丸有環境共生型まちづくり推進協会）では、同協会の会員企業向け研究会である「環境経営サロン」（別紙資料1参照）における活動内容をまとめた書籍、『環境でこそ儲ける』（小林光【編著】）を、2013年3月21日に東洋経済新報社より出版しました。

出版を記念し、4月19日に記念シンポジウムを開催いたします。

環境経営サロンは、持続可能なまちづくりを進める上で大切な、“環境リテラシーの高い企業”あるいは“サステナビリティを追求する企業”の姿を、議論や情報交換を通して明らかにし、環境経営の価値を生み出すことを目標としています。日本企業のコアコンピタンスでもある「環境技術」「環境サービス」。これを、CSRや社会貢献として使うだけでなく、本業である事業活動とどう結び付けるか。「持続可能な発展」や「経済と環境の両立」を進める上で欠かせないこの視点から、成功だけでなく、苦労や失敗、経営判断の真相などもふくめた企業経営者のプレゼンテーションを通して考えを深めてきました。2011年のスタート以来、74の企業・団体が当サロンの活動に参加しています。

また、今回出版した『環境でこそ儲ける』では、各企業経営者プレゼンテーション内容のほか、「CSV経営」や「ISO26000」、今後求められる21世紀の環境先進企業像についてもまとめています。

エコツェリア協会では、今後も本書籍のように、活動の成果を広く社会に提供し、企業の成長とサステナビリティ、日本の社会の価値創造に役立つような活動を続けてまいります。

**エコツェリア協会とは**

大丸有地区が「持続可能な環境共生型都市」となるためのまちづくりプラットフォームであり、横断的・立体的・有機的なネットワークをベースに、環境コンシャスな人々や企業が、環境・CSR活動の推進や、技術開発に向けて学び、考え、形にしていくコミュニティづくりを行う組織として、様々な取り組みを支援します。設立以来、「丸の内朝大学」「エコ結び」「大丸有打ち水プロジェクト」「大丸有エコキッズ探検隊」「地球大学アドバンス」などのプロジェクト、セミナー開催などを続けています。

**▶出版記念シンポジウムについて**

発行にあたり、サロンでコメントーターを務め、本書の編著者でもある小林光氏を迎えたシンポジウムを4月19日(金)に開催します。

環境経営サロンに参加する企業担当のほか、環境の専門家、企業経営の専門家が集まる会となっております。シンポジウム詳細は裏面をご確認ください。



## 出版記念シンポジウム概要

### ●日時

**4月19日（金） 17：30～20：30（開場17：00）**

### ●場所

**新丸ビル10階「エコツェリア」（千代田区丸の内1-5-1）**

### ●内容

出版記念シンポジウム「環境でこそ儲ける、とは」

小林光 氏（慶應義塾大学大学院教授 『環境でこそ儲ける』編著者）

水上武彦 氏（株式会社クリーン コンサルタント）

小松俊昭 氏（金沢工業大学 産学連携室コーディネーター）

※シンポジウム終了後、懇親会を開催いたします。

### ●シンポジウム発起人 ※敬称略

杉山博孝（三菱地所株式会社代表取締役）／会場直人（エコツェリア協会副理事長）／

池田靖史（慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科教授）／大熊一寛（環境省総合環境政策局環境経済課課長）／小松俊昭（同上）／

竹ヶ原啓介（株式会社日本政策投資銀行環境・CSR部長）／中里有吾（東洋経済新報社出版書籍編集部）／水上武彦（同上）

## 書籍『環境でこそ儲ける』概要

『環境でこそ儲ける』

【編著】小林光 【発行】東洋経済新報社（2013年3月21日）【価格】2,100円

### ●主な内容

序章 よい子の住むよいまちづくり—環境経営サロンの試み

第1章 「環境嫌い」から「環境で儲ける」への大転換

第2章 環境経営の現場から（12社の事例研究）

- 1 マイナスをバネに飛躍 チッソ株式会社、前田建設工業株式会社
- 2 社長のイニシアティブ 旭化成株式会社、パナソニック株式会社
- 3 高度な技術を磨く 本田技研工業株式会社、旭硝子株式会社、農事組合法人和郷園
- 4 顧客とともに成長 阪急電鉄株式会社、三菱地所株式会社、西武信用金庫
- 5 目利きになる 株式会社日本政策投資銀行、三井住友フィナンシャルグループ

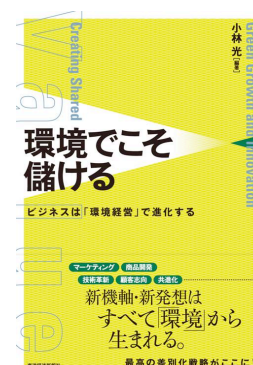
第3章 環境経営の現場を読み解いて見えてくるもの—21世紀の環境経営を考える

第4章 環境経営を本業に組み込む新視点

### ●編著者について

小林光（慶應義塾大学大学院教授）

1949年東京生まれ。1973年慶應義塾大学経済学部卒業。同年環境庁（当時）入庁後、主に環境と経済、環境のための計画、地球環境等に関わる諸課題を担当。1995年以降は、同庁地球環境部環境保全対策課長として、気候変動枠組条約第3回締約国会議（COP3）の日本への誘致、同条約の京都議定書の国際交渉、我が国初の地球温暖化防止法制（地球温暖化対策推進法）の国会提出などを担当。環境管理局长、地球環境局長、大臣官房長、総合環境政策局長を経て、2009年7月より環境事務次官。水俣病被害者諸団体との和解、水俣地域の再生等を先頭に立って推進。地方の現場の環境行政も担当し、北九州市産業廃棄物課長も務めた。研究教育面では、パリ大学都市研究所への留学、米国東西センター客員研究員なども歴任。東京大学大学院工学系研究科（都市持続再生学コース）修了（工学博士）。2011年1月に退官し、同年4月より慶應義塾大学大学院及び環境情報学部教授。専門は、環境政策論、エコまちづくり、環境共生経済論。主な著書に『日本の公害経験』『環境保全型企業論序説』『エコハウス私論—建てて住む、サスティナブルに暮らす家』『低炭素都市』などがある。



サロン実施の目的とポイント

...「環境経営」推進の要素を企業間で実質的に共有

- 環境まちづくり→環境経営を推進する企業の立地増加が、実現のカギ
- 環境経営の事例研究（継続）  
事業開発、周困（地域、NPO、他企業等）との連携、社内の人材活用等  
推進の原動力となる、経営者の判断、継続させる投資・体制づくり・運営
- 「環境経営とは」提言ペーパーを企業間で共有し、環境経営の加速度を向上させる

1. 環境の専門家、企業経営の専門家による運営（2011から継続）

- コメンテーター 小林光氏（元環境事務次官／慶應義塾大学大学院政策メディア科教授）を起用  
→環境政策の企画立案・運営に携わってきた立場から、事例の評価を引き出す。
- モデレーター 小松俊昭氏（金沢工大産学連携室／元日本政策投資銀行）  
→地域開発、地域活性の経験に基づく企業経営者ネットワークを活用。  
→サポートメンバー 竹ヶ原啓介氏（日本政策投資銀行 環境・CSR部長）

2. 大手町・丸の内・有楽町エリア内外の環境経営先進企業の招聘／フランクな意見交換の場づくり

- 環境面での取り組みが社会的評価を得ている企業の経営層（実担当者）による話題提供
- エコツェリア協会会員企業の参画、エリア内の非会員企業の巻き込みの推進  
距離感の近い企業の拡大により、「環境経営」を核に、様々なテーマで本音ベースでの意見交換を推進  
定期的開催し、参加企業同士の交流の深度化を進め、実質的な「サロン」として組成

3. 成果の発信

- エコツェリアWEBで、レポート記事作成、開催実績の発信
- 理事会、会員向けレター等での情報発信
- 書籍化による一般への訴求

## 「環境経営」5つの要素

### 1. 環境を経営戦略に織り込む

事業戦略・事業展開の中で、正面から取り組む

I 環境経営によって、商品力をアップする

II 環境経営を支える社会システム・インフラを構築する

### 2. 成長阻害リスクを軽減する

社会的費用の顕在化等、企業の持続性に対するリスクを減らす

### 3. 成長の源泉となる付加価値を創出する

製品・サービスの環境性能向上とともに、他の価値の向上を掛け合わせる。

### 4. トップのリーダーシップと企業理念、企業ガバナンス

環境向上に企業内を向かせる力と、企業内に好循環を生む「投げ所」をつくる。

### 5. ステークホルダーと共鳴する共進化

消費者、地域社会、バリューチェーン等と継続的に対話し、一体的進化を追求する。